



佐伯裕子氏

■プロフィール

1972年京都市生まれ。京都女子大学短期大学部卒業を、1995年23歳の夏に北京第二外国語学院に2年間の語学留学をする。1997年香港返還の年に広東省東莞市の日系プラスチック成形メーカーに現地採用として就職。その後深セン市の日系製造メーカーへ転職。在職中は生産工場の人事総務、生産管理、通関関連のマネージメントなどを担当。約14年の工場勤務時には、中国人スタッフとスムーズにコミュニケーションを取れる唯一の日本人として、中国人と日本人の架け橋となり、企業の発展に貢献。2012年2月に退職し、8月に広東省広州市で広州ビジネスコンサルティング有限会社を設立。パートナーは、深セン市にある深セン正銘ビジネスコンサルティング有限公司で、日本人の個人と中国企業の合資企業という形態で設立。広東省に進出する日系企業の進出サポート、進出した日系企業に対して、会社運営(財務、税務、通関、人事労務)に関するさまざまな問題の解決のため、「現場に則したコンサルティング」をワンストップで行っている。



中国との出会いは突然に

中国との出会いは、一人の先輩の一言から始まりました。1994年の秋、すでに短大を卒業し就職したものの4カ月で退職、フリーターをしていた私に、四大で在学中の先輩から『佐伯、中国に1カ月間旅行にいかへん?』と言われたのがキッカケでした。それまで中国に関する知識は、高校時代に勉強した世界史で程度しかありません。三国志の大ファンでもなく、唯一1993年にベストセラーとなった中国人女性作家コン・チアンの自伝『ワイルド・スワン』を読んで、隣の大国は文化大革命があり、私が小学校に入学するくらいまで混乱していたのか、と置いていたくらいでした。

■すべてが新鮮で驚きの毎日

1994年11月に女子3人で、神戸から鑑真号に乗船し上海、北京、大同、南京、杭州、紹興とバックパッカー旅行しました。

この1カ月間の旅行は、本当にすべてが新鮮で驚きの毎日でした。例えば、銀行では、窓口の方はお茶を飲みながらの対応、窓口奥には昼寝用の折りたたみ式の簡易ベッドが置かれていました。さらに、道ではショートケーキを立ち食いしている人を見たり、子供のズボンが割れているのを発見したり、と見るものすべてに興味を持ち、すっかり中国にハートをわし掴みされました。

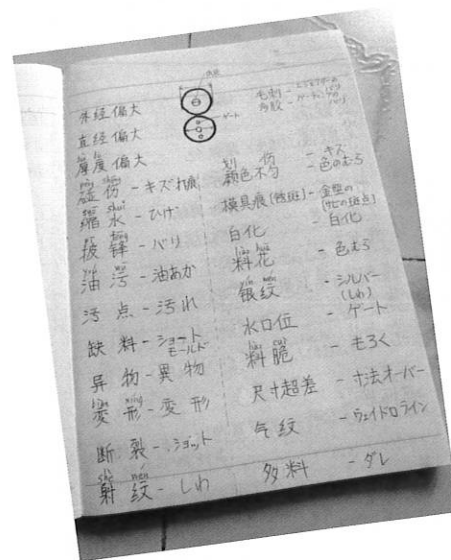
早速、旅行中に出会った日本人留学生に留学方法を聞き、帰国後すぐに日中友好協会で留学の手続きを行いました。両親も自分のお金で留学するならば反対しないということで、比較的スムーズに留学することになったのです。

■現地採用での就職まで

北京第二外国語学院で1995年8月～1997年7月まで2年間留学をしました。

中国語を一切勉強したことがなく留学をしたので、初めての授業では、自分の名前を呼ばれていることすら気づきませんでした。留学生には韓国人が多く、歴史問題に直面し海外の対日感情を肌で感じることになり、また交流の中でそれぞれがお互いの国の歴史、習慣、文化を全然知らないことにも気づかされました。今まで“日本人”を意識することはほとんどありませんでしたが、彼らとの交流を通じて“日本人”として色々と考えさせられることも多かったです。

2年の留学が終了し、北京で無謀にも就職活動をしました。しかし、当時の北京には大手企業は進出していましたが、現地での採用権はなく、ましてや日本人女性を採用するなどありえない時



代でした。そして、北京での就職活動を断念し、日系企業の進出ブームが起こっていた広東省東莞市で就職をしました。

就職先は、日系プラスチック成形メーカーでした。当初は、日常会話レベルの中国語しか話せず、工場専門用語や地方出身のワーカーの訛りが聞き取れません。中国人からの『役に立たない』という冷たい視線に涙するも、専門用語の日中単語帳を死に物狂いで作成し、その後は問題なくコミュニケーションが取れるようになりました。大学で出会った中国人と就職してから出会った中国人は、私に対する接し方、話し方が全く違い、戸惑ったのを覚えています。

現地採用としての勤務を、3社経験しました。3社目の日系企業が大手企業のグループ会社だったため、企業経営、マネジメントについて勉強することが出来ました。約14年の現地採用経験では、主に人事労務、通関、生産管理を担当しました。中国の法律の突然の変化や当局担当者の解釈の違いによって手続きがスムーズに行えなかったり、社内ではデリバリー、品質問題、停電等のトラブルが発生したり、と常

に問題は絶えません。工場の在職中は24時間携帯電話をOFFにすることはなく、着信音が鳴ると『あー、またトラブルが発生したあ』とビクビクしたことを覚えています。通関士からの連絡が一番心臓に悪かったです。通関士から連絡があると必ず税関で貨物検査が入った電話で、輸入がスムーズにいかなくなくなり、材料納期に影響が出てしまい製造部の生産計画を変更しなくてはならないのではないかとヒヤヒヤしたものです。

■広州市での起業

2011年3月11日に東日本大震災が発生しました。この時ほど自分の無力さを感じたことはありませんでした。また『日本』という国をこれほど意識したこともありませんでした。何か日本に役立つような事はないかと考えていた時に、当時の尊敬する元上司の帰任も決まり、年齢的にも起業するのは今しかない決意をし、2012年2月に退職を決意しました。

中国で起業するならばパートナーは中国人がベストであると考えていました。たまたま、これまでも仕事で御縁のあった深セン正銘ビジネスコンサルティング有限公司と個人としての私が出資をして、日中合資企業として会社を設立しました。現在は広州市正銘ビジネスコンサルティング有限公司の経営者として広州に在住しています。

14年間の日系製造業でのさまざまな経験を活かし、日系企業の皆様に対し、通関、人事労務、財務、税務に関するワンストップでのサポートを行っています。弊社のこだわりとして、従業員は、すべて工場の経験者を採用しています。表面的なサポートではなく、私どもの過去の経験を活かし、工場の現場まで訪問させていただいて、問題を

根本から解決できるような、一歩踏み込んだサポートをしています。

こうした「工場での経験を活かしたコンサルティング」にご共感いただき、去年は広州市、中山市、上海市、蘇州市などで講演をさせていただきました。

■広東省の変化

1990年の初めから広東省の深セン市、東莞市に日系企業の進出が始まりました。大手セットメーカーについてくるように、その後日本の中小企業がどっと押し寄せ、何をしても儲かる



という時代でした。中国の法律、法規も整備されておらず、本当に「なんでもあり」のイケイケの好景気でした。中国人も大家族を養うために出稼ぎ労働者が溢れかえりました。当時の広東省は本場に改革開放の波に乗った時代、そして地域でした。私が当時勤めていた会社の周りの畑や魚の養殖場も、どんどん埋め立てられて次々に工場へと変わっていました。

2004年からは自動車産業の進出が広州で始まりました。日本のビッグスリーが一つの都市に工場を構えることは、世界中でも広州市だけです。広東省は益々活気に溢れ、名実ともに世界の工場となりました。

2001年にWTOに加盟したことで、法令等の整備、貿易関連制度の改善、サービスの自由化が促進され、現在では世界の工場から市場へと大きく変化しています。格差社会と言われながらも、高価なiPhoneが飛ぶように売られています。やはり13億人という巨大な個人消費市場は、これから益々世界から注目されることでしょう。

インターネット社会にも突入り、人材を探し、求人を探し、日用品、洋服、パソコンを買うのもすべてネットです。ネット上で購入し翌日には配送されるようになり、ネット販売の売上は非常に伸びています。

1995年に留学した時から、本当に考えられないほどのスピードで発展し続ける中国を目の当たりにし、未だに毎日、いい経験をさせてもらっています。

■ これからの中国の日系企業

この10年の物価の上昇率は、ものすごい勢いです。特に不動産は日本より高い物件が飛ぶように販売されています。

中国は市場としては魅力的ですが、モノづくりが得意な製造業にとっては、労働コスト、原材料、物流コストの上昇で利益確保をするのに大変厳しい状況となってきました。今まで以上に細かい管理、改善を継続していかなければなりません。

また会社設立10年以上の企業も増えています。ある程度ローカルスタッフも育ち、ローカル化を目指す企業も多いですが、一方、なかなか組織力が上手く発揮されておらず悩まれている企業も少なくありません。私たちはお客様の現場に行きアドバイスをしています



が、財務、通関のローカルスタッフは実は自分たちの専門知識を持っている人が多いのです。各部署のそれぞれの業務はルール通り行のですが、他部署と関連がある業務になってくるとこれが上手いかわからないのです。“コミュニケーション”を自ら取ろうとせず、相手の部署が連絡して来れば対応するというスタンスなので、発生している問題のほとんどが“コミュニケーション不足”によるものです。他部署のことを考えるということに欠如しているため、組織が上手く作用していないのです。このため今後は知識型の研修ではなく、意識の変化を与える研修が必要になると考えています。

■ 和僑会との出会い

深センで勤務していた当時、深セン和僑会に参加していました。私は工場の管理部門にいましたので、普段は殆ど外出することがなく、あまり外部との交流もありませんでした。その時に同世代くらいの方が運営している深セン和僑会を紹介していただき、よい交流の機会だ、と思って参加するようになりました。

深セン和僑会は、とにかく事務局員が若いのでアイデアが豊富で色々なことをチャレンジしていく、活気のある

会でした。ここで若いながらすでに深センで起業している“和僑”に出会うことができました。私が中国で起業する時も、あまり不安にならなかったのも彼らのお陰かもしれません。

■ 広州和僑会の再出発

実は広州和僑会は、まだ正式な和僑会ではありません。5年間も準備室の状態です。正式な和僑会に認められるには、いくつかの条件をクリアしなくてはなりません。今年は事務局長を引き受けることになり、できることから少しずつ活動して予定。事務局員もメンバーが少ないので、若手を中心に声をかけて、また年配の先輩方にはアドバイスをいただきながら、広州和僑会らしさを見つけていければと思っています。

広州に“和僑”はいますが、みなさん会社で繋がっている人間関係以外はあまり交流がないのが現状です。広州和僑会では“和僑”同士の交流のサポートもさることながら、華僑やその他国々の方とも交流を試みようとしています。海外にいるのに“和僑”だけで化学反応するだけでは面白くありません。海外という好条件を活かして、新たな化学反応を見つけて行きたいです！

グローバルBizジャーナルの雑誌化を記念しキャンペーン実施
ご購読のお申し込みをいただきますと、先着で特典がございます。

特典

『グローバルフードマーケット大予測2014』
外食企業必読の書籍(通常価格3,000円+税)をプレゼント!

■ご購読のお申込は以下にご記入の上、FAXをお送り下さい。

FAX購読申込書

お名前	(姓)	(名)	フリガナ	(姓)	(名)
貴社名	印		フリガナ		
業種					
ご住所	□□□ □□□□ (フリガナ)				印
<input type="checkbox"/> 勤務先 上記ご記入の住所が勤務先の場合 <input checked="" type="checkbox"/> を					
所属部署名			役職		
電話番号	()	-	FAX番号	()	-
Eメール アドレス	@				

ご購読コースをお選びください

自動継続	<input type="checkbox"/> 2014年 月~(お客さまの中止のご連絡がない限り、自動的に継続します)
1年	<input type="checkbox"/> 2014年 月~ (1年間) 発行 毎月末

お支払い方法をお選びください 1年 24,000円(税別)

郵便振替	<input type="checkbox"/> (購読期間1年でご希望の際はこちらでお願いします)
------	--

送信先

FAX03-3556-5526
お問い合わせ 03-3556-5525